

## 論文要旨

学位論文題目 「占領下沖縄における社会科成立史研究」

氏名 萩原 真美

本研究は、占領下沖縄において、本土の戦後教育改革の目玉の一つとされた社会科が、どのような過程を経て、いかなる性格の教科として成立に至ったのかを検証したものである。

第Ⅰ部では、占領下沖縄における社会科成立の背景を論じた。米軍による占領が開始した1945年4月以降学校が再開され、1946年4月に八・四制の制定を経て、1948年4月に社会科成立の直接的な要因である六・三・三制導入に至る過程を詳細に検討した。米軍による教育政策は、学校の再開に始まり、教育行政機構の整備、教科書の編纂作業、教員養成機関の設立を経て、1946年4月、沖縄の戦後初の教育制度である八・四制が制定された。対沖縄占領教育政策は、沖縄戦を経て米軍による占領が進められる中、「超国家主義的教育の禁止」「軍国主義的教育の禁止」「沖縄の道」（沖縄の独自性を尊重し、新たな沖縄を建設していこうとする精神・姿勢）に「本土との切り離し」が加わり、この4点を軸に実施された。対沖縄占領教育政策方針に則った教育課程及び、ガリ版刷り教科書（沖縄独自に編纂された謄写版の教科書）を作成して教育政策が実施されたが、沖縄の教育行政側は本土とは一線を画する政策に対し、次第に焦燥感を抱くようになる。1947年11月下旬、沖縄民政府は、米軍政府からガリ版刷り教科書の発行を中止し、その代替として本土の教科書を輸入して対応する用意があることが伝えられた。沖縄側はこれをまたとない好機ととらえ、六・三・三制下の日本の教科書を使用するにあたり、教育制度も六・三・三制へ変更するほうが合理的だとして、1948年1月、八・四制から六・三・三制への学制変更を申請、同年3月に認可、4月に六・三・三制の導入に至ったことを明らかにした。

第Ⅱ部では、社会科前史として位置づく人文科公民、歴史、地理について論じた。第5章では、人文科公民、歴史、地理がおかれた要因として、『米国教育使節団報告書』の流入とその影響があったことを明らかにした。第6～8章では、人文科公民、歴史、地理の教育課程・ガリ版刷り教科書、教材、教員が作成した授業ノート等、教育内容が窺える史料を可能な限り収集し、科目毎に内容分析を行った。いずれの科目も対沖縄占領教育政策方針に則っていたが、科目や媒体によりその反映のされ方が異なっていた。人文科公民は、初等学校・高等学校とも戦前の修身科・公民科、師範学校の修身及び公民科との関連性が高いが、高等学校では「沖縄の道」に関する題材は少なく、重視されていなかった。人文科歴史は、琉球王国期を中心とした沖縄の歴史が描かれ、「沖縄の道」が全面的に扱われていた。人文科地理は、戦前の教授要目及び地理教科書との関連性が高いが、『地理 六年』『地理 七年』は、戦後の暫定教科書と酷似していた。「沖縄の道」に関しては、媒体によって沖縄に関する事項の扱いに差があった。沖縄の教育行政機関である沖縄民政府文教部（以下、文教部）が発行した教科書・教材等とは違い、授業ノートには超国家主義的教材が一部扱われ、沖縄の歴史を日本と連関させるなど、日本との結びつきを図る記述が見られた。科目あるいは媒体により教育政策方針の表れ方が異なることから、米軍による

対沖縄占領教育政策は、細部にわたり徹底されたわけではなく、限界があったと言える。

第Ⅲ部では、六・三・三制の導入に伴って社会科が設置されてから、実際に社会科の授業が開始するまでの1年間（1948年4月～1949年3月）を論じた。社会科の実施に1年間に要したのは、第一に、学校現場に社会科の教科書がいきわたったのが1948年9月であったこと、第二に、文教部及び学校現場の教員が新教科である社会科を理解する必要があったこと、第三に、本土の社会科教科書には沖縄が扱われていないことを問題視したことであった。文教部は、1948年9月、社会科のガイドラインである『社会科について』を発行し、以後約半年間にわたり講習会を開催した。また、社会科の中で沖縄の歴史を扱うために、副読本『沖縄歴史』を編纂し対応することを決めた。副読本『沖縄歴史』は予算の関係で難航したが、ハワイ連合沖縄救済会による、副読本『沖縄歴史』の印刷を引き受ける申し出により、発行が叶った。副読本『沖縄歴史』は、本土の暫定教科書である『くにのあゆみ』の形式が踏襲され、ガリ版刷り教科書『沖縄歴史』を書き写したと推察される、人文科歴史の授業ノート「文教編纂（文教編纂）」の内容と合致したものであった。副読本『沖縄歴史』は、沖縄のことを中心としながらも、日本、中国、アメリカとの関係性が描かれていた。沖縄の社会科は、本土の教科書を正規の教科書として用いつつ、副読本『沖縄歴史』により沖縄の歴史を扱うものであった。占領下沖縄で成立した社会科の特異性は、本土の情勢と合わせることを志向した結果、六・三・三制が導入され、それに伴い設置された社会科という枠組みにおいて、沖縄の歴史、すなわち「沖縄の道」を扱おうとした点であると結論づけた。